

～連携と協働を通じた 安全・安心な学校づくりへ～

大阪府教育委員会



高槻市立寿栄小学校の取組



令和5年度 学校安全総合支援事業 実施概略

領域	学校安全に係る連携	防 災		交 通 安 全
事業内容	学校安全に係る学校間の連携の推進・支援	学校防災アドバイザー派遣	災害ボランティア活動	スクエアドストリート教育技法を活用した交通安全教室
概要	<p>先進的な安全教育実践校から中核教員を招聘、及び、中核教員を先進的な安全教育実践校へ派遣。</p> 	<p>学校防災アドバイザーを派遣し、防災に関する指導・助言を行う。</p> 	<p>実践校が企画・立案した被災地でのボランティア活動を支援。</p> 	<p>スタントマンによる交通事故状況の再現により、事故の悲惨さを実感し、安全確認等の励行や危険運転の自制を促す。</p> 
対 象	府立3校、2市町村	府立11校、3市町村	府立・私立学校の高校生 府立4校、私立1校	小学校5年生以上 府立4校
実施期間	令和5年7月～12月	令和5年7月～12月のべ3回（2時間/回）	令和5年7月～11月中旬	令和5年10月～12月
モデル校選定	<ul style="list-style-type: none"> ●保健体育課及び私学課が選定。 ●各市町村は学校園を指定可。 	<ul style="list-style-type: none"> ●保健体育課及び私学課が選定。 ●各市町村は学校園を指定可。 	保健体育課及び私学課が選定。	<ul style="list-style-type: none"> ●保健体育課及び私学課が選定。 ●各市町村は学校園を指定可。
その他条件等	<ul style="list-style-type: none"> ●決定校には別途、詳細な計画書の提出を依頼する。 ●説明会を実施。 ●教職員2名・1泊 以内。 ●経費(16万円未満/校)は保健体育課及び私学課が負担。 	<ul style="list-style-type: none"> ●指導助言内容 ・避難訓練 ・「学校安全計画や危険等発生時対処要領」の見直し など ●当該市町村教育委員会はアドバイザー適任者を府教育庁に推薦することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●決定校には別途、詳細な計画書の提出を依頼する。 ●災害ボランティア活動と現地高校生や被災者等との交流が必須。 ●事務手続きは説明会を実施。 ●生徒6名・引率1名・3泊 以内。 ●経費(67万円未満/校)は保健体育課及び私学課が負担。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地元警察署と連携して実施する。 ●近隣学校や地域と連携しての実施が必須。 ●グラウンド等でスタント用車・自転車の走行、雨天時に備えて体育館にて自転車の走行が可能であること。 ●夕刻に実施の場合は、事前に要相談。

高槻市について



多様な人々と協働しながら、一人一人が活躍し、
安全で安心して豊かに暮らせる社会をめざして

第2期 高槻市教育振興基本計画



令和3(2021)年3月

高槻市教育委員会
TAKUSAKI CITY BOARD OF EDUCATION



高槻の教育がめざす子ども像

「人や社会とつながり、学び続け、
よりよい自分と社会を創る子ども」

重点取組

1 安全・安心な学校づくり

2 施設一体型小中一貫校の設置

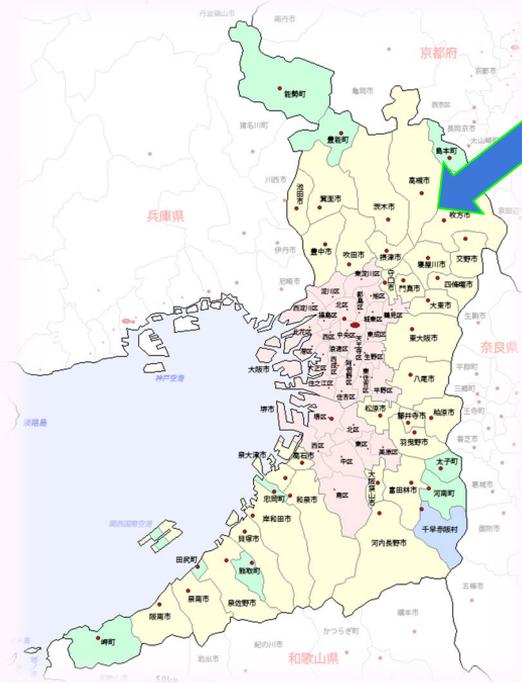
3 コミュニティ・スクールの推進

4 ICT機器を活用した教育の充実

5 教職員の資質・能力の向上



学校紹介



- 高槻市南部：高槻市栄町
- 各学年2学級・支援学級4学級
- 児童数は 302 人
- 教職員27名

1974 年に創立【今年度50 周年】

本校の地理的な特徴は、淀川・芥川・安威川といった一級河川に囲まれており、外水氾濫時には3m～5mの浸水が予想されている。

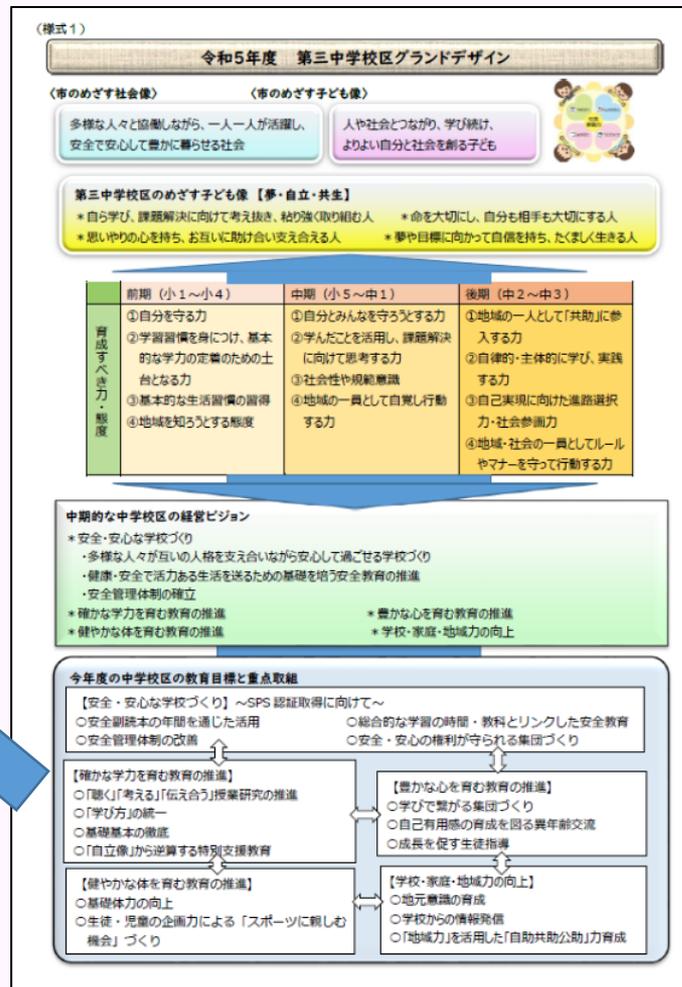
「南海トラフ地震」が発生した場合に想定される**最大震度は6強**とされている。また、高槻市を横断している「有馬高槻断層帯」が活動した場合に起きる「有馬高槻断層帯地震」は、**最大震度7**の大きな揺れが想定されている。



グランドデザイン

【今年度の中学校区の教育目標と重点取組】

- 安全・安心な学校づくり
- 確かな学力をはぐくむ教育の推進
- 豊かな心を育む教育の推進
- 健やかな体を育む教育の推進
- 学校・家庭・地域力の向上



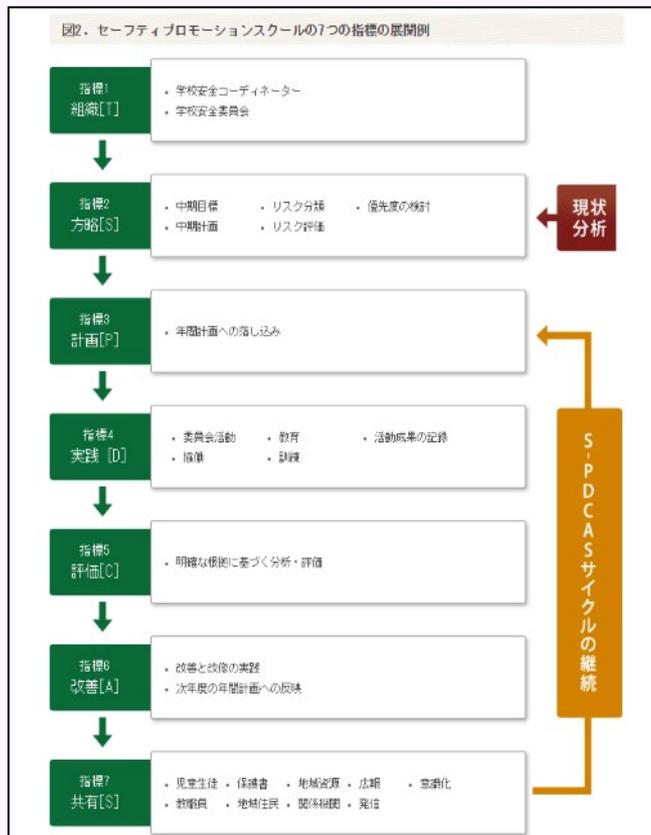
学校教育目標

考え・つながり・のびていく子

《研究主題》

安全・安心な学校づくりに向けた安全管理の取組と
「聴いて・考えて・伝え合う」ことを大切にした
安全教育についての授業研究と実践

セーフティプロモーションスクール認証校として



セーフティプロモーションスクールの指標に沿って取組を展開

中期計画・中期目標



学校安全に関する年間計画



評価・改善
次年度につなげる

1年かけてPDCASサイクルに取り組む

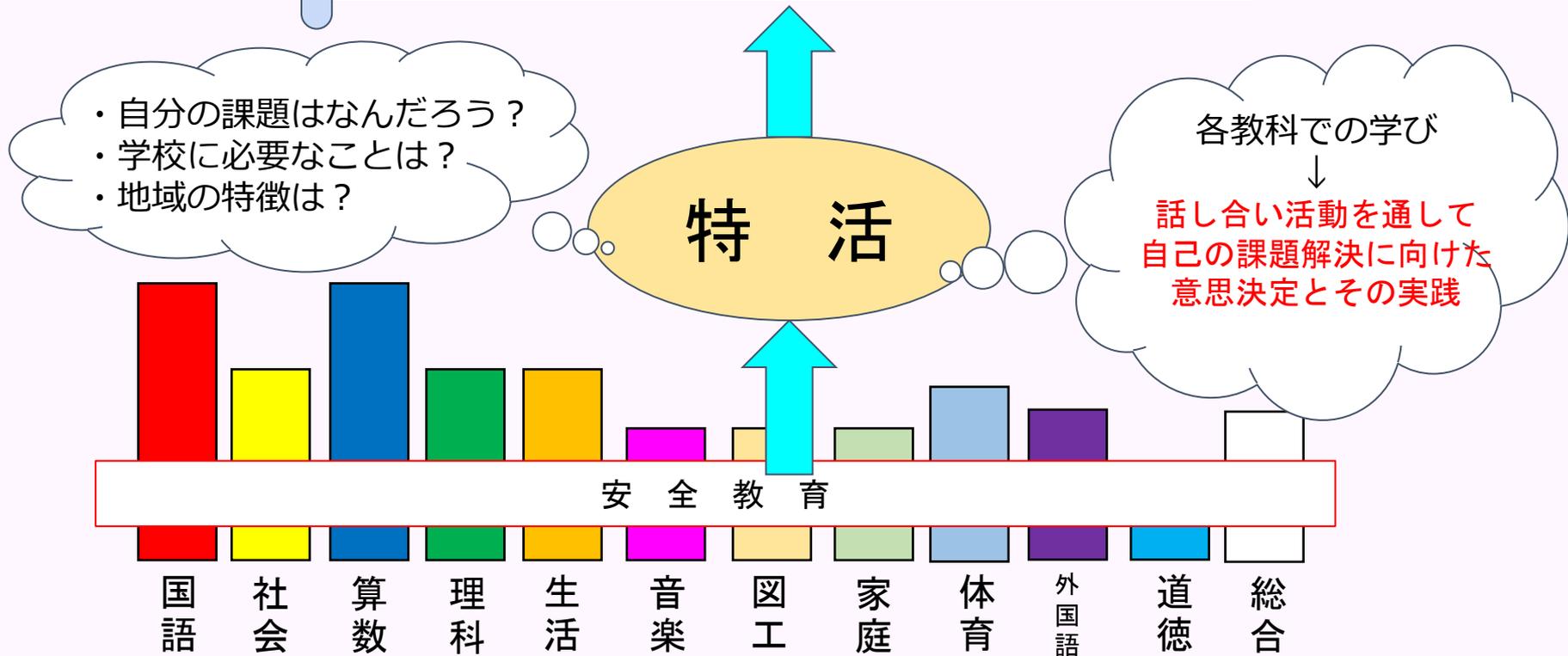
※令和3年3月
セーフティプロモーションスクールの認証を取得

安全教育の取組



安全教育のテーマ

自分事としてとらえる安全教育



学校安全計画（各学年で作成）

実施月、教科、単元名、指導事項、種別（生活・災害・交通）、ねらいが書かれている。年度初めに、計画を立て、実施し、実施後必要に応じて書き換え、次年度に引き継いでいる。



高槻市教育委員会作成
安全教育副読本



実施月	教科	単元名	取扱い	指導事項	種別	ねらい	たかつき安全NOTE	実施済み
10	体育	陸上運動	授業内の短時間	跳躍運動時の安全	生活安全	場や用具の安全に留意する		済
11	理科	大地のつくりと変化	1単位時間	火山・地震と安全ハザードマップ	災害安全	火山活動や地震に対する具体的な備えを知り、自然との向き合い方について考えることができる	11・13	済
11	家庭	生活を豊かにソーイング	1単位時間	ミシンの使い方	生活安全	道具の安全な使い方について理解する		済
12	体育	ボール運動	授業内の短時間	ボール運動時の安全	生活安全	場や用具の安全に留意する		済
12	学級活動		単元	自転車の点検と整備の仕方	交通安全	自転車の点検と整備の仕方について理解を深める。		済

生活安全



1年生 特別活動

「きょうしつのおんぜんてんけんをしよう」

【目標】

教室での行動を振り返ることで危険に気付き、安全な教室にするために、大切なことを考える。安全に過ごすための目標を決め、安全点検表を作成する。



◆ 関連する教科

生活科「いちねんせいになったら」

きょうしつのおんぜんてんけん		なまえ()	
めあて	9がつの【きょうしつのおんぜんてんけんひょう】をつくらう。	19115	19119 20115
れい	きょうしつをはしているひとは、いないかな。		
1			
2			
3			
ふりかえり			

【連携】

私立幼稚園から視察・情報交流



3年生 総合的な学習の時間 「学校の安全のくふうをみつけよう」

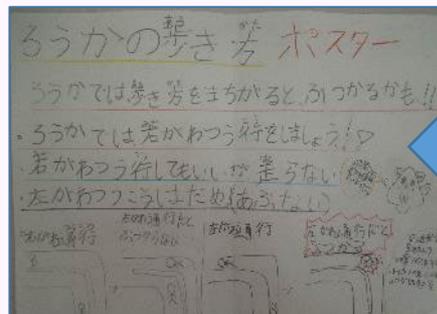
【目標】

学校安全の工夫を知り、危険箇所を調べ、報告書にまとめて提案しよう。

- ①校内での危険箇所を調べる。（総合）
- ②報告書にまとめる。（国語科）
- ③危険箇所の改善要望を校長先生にする。（総合）
- ④学級活動で安全に関する取組を実施する。（特別活動）

◆関連する教科

国語科 「仕事のくふうみつけたよ」



6年生 体育科 「水泳 安全確保につながる運動」

【目標】

水の事故に遭遇に備え、自他の命を守るための落ち着いた対応の仕方を学ぶ。

着衣状態での安全確保につながる運動において、その行い方を理解する。

(背浮きや浮き沈みしながらタイミングよく呼吸など)

【連携】

日本ライフセービング協会



交通安全



2年生 特別活動 「交通安全 ～校区での安全の工夫について考える～」

【目標】

起こりうる危険を予知したり、安全の工夫を見つけたりしながら、交通安全について話し合うことで、自分が最も気を付けたいことを決めることができる。

【連携】

登下校の見守りをしてくれている地域の方
(スクールガード)

◆関連する教科

生活科「町たんけん」

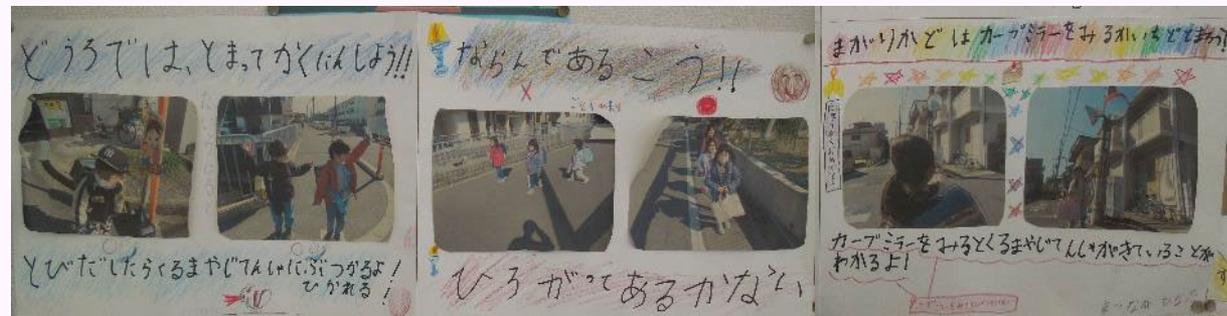
1. 公園探検をしよう
2. 町のすてきを発表しよう



地域の方の話



特別活動 研究授業



4年生 特別活動 「自転車の乗り方」

【目標】

日常生活の中に潜む交通の危険を予知し、安全な行動について考え、自分はもとより、公共の安全についての行動を身につけることができる。

【連携】

- ・高槻警察署
- ・土佐市立蓮池小学校（高知県）

◆ 関連する教科
特別の教科 道徳
「安全に気を付けて」



高槻警察 交通安全出前授業



研究授業



土佐市立蓮池小学校と交流

全学年 特別活動 「みんなで学ぶ交通安全教室」

【目標】

交通安全意識向上と交通事故防止を図る。

- ・大型バスによる内輪差テスト
- ・パトカーによるブレーキテスト
- ・交通安全の動画学習
- ・自転車・歩行実技（高学年）

【連携】

高槻警察署・高槻市役所（交通部）
高槻市教育委員会・校区PTA



災害安全



4年生 社会科「災害からくらしを守る」

【目標】

自然災害について知り、家庭、学校、地域、自治体の取組を理解し、個人でできること、家族や友達・地域で協力してできることを考える。



地域防災備蓄倉庫の見学

【連携】

- ・ 地区防災会 会長
(出前授業：地区防災会の役割)
- ・ 保険会社
(出前授業：自然災害の危険性)



保険会社の出前授業

5年生 総合的な学習の時間 SPSサポーター



「**SPS サポーター**」とは、セーフティプロモーションスクールに認証された学校における児童会・生徒会活動等を通じて、当該校におけるセーフティプロモーションスクール活動の持続可能な発展に活躍することが期待される人材を育成することを目的として、在籍する児童生徒を対象に「SPS サポーター」を委嘱する制度です。

今年度は、5年生児童51人をサポーターとして認定

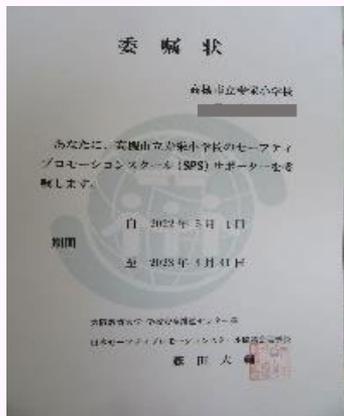
【目標】

みんなのために安全に関して学んだこと、考えたことを様々な方法で他学年・地域に発信していき、安全・安心な生活を送れるようにサポートしていく。

- ① 1～4年生に安全に関する啓発（発表）をしよう。
- ② 地域・保護者に向けて防災への学びを発信しよう。
- ③ まとめ～今年度のまとめをして、次年度に向けて4年生への引き継ごう。

◆ 関連する教科

- ・ 社会科
- ・ 理科



5年生 SPSサポーター①

～1～4年生に安全に関する啓発（発表）をしよう～

【目標】

安全安心な学校生活を送れるように、
その学年に合った内容を考え、工夫して伝える。

- 1年生
「ちくちくことば・ふわふわことば」
- 2年生
「安全な遊具の使い方」
- 3年生
「安全な教室や廊下の過ごし方」
- 4年生
「安全な登下校の仕方」



5年生 SPSサポーター②

～地域・保護者に向けて防災への学びを発信しよう～

【目標】

安全・安心な地域にするために、保護者・地域の人に学んだことを発信しよう。

- 地域の現状を知る
(地区防災会 会長)
- 防災士から学ぶ
- 地域に伝えるテーマを決め、調べる。
- 伝え方を工夫し、発表を作り上げる。
- プレ発表会 (6年生と先生へ)
- SPS大防災会～保護者・地域の方々へ伝える～2月20日



S P S 大防災会

【発表内容】（昨年度の様子）

- ・ 高槻市のハザードマップと地域の危険性
- ・ 非常食
- ・ ローリングストック
- ・ 防災グッズの製作
- ・ けがの手当て
- ・ 防災アプリ
- ・ 食物アレルギー など

（今年度は2月20日に実施予定）



防災倉庫・仮設トイレの見学



児童の発表の様子

火災避難訓練

【目標】

火災に伴う避難の方法や手順を理解し、
進んで安全な行動をとろうとする態度
を育む

【想定】

給食調理室より火災発生（授業中）

① 事前学習

火災の恐ろしさと避難の仕方を学ぶ。

② 訓練実施

学習したことをもとに訓練を実施する。

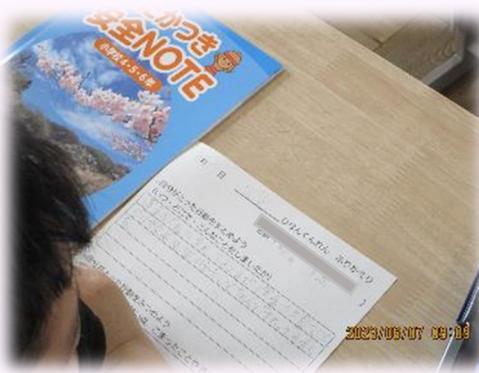
③ 事後学習

自分がとった行動を振り返り、今後にか
かす。

事前学習



事後学習



訓練実施



2月には休み時間に地震が
発生したという想定で避難
訓練を実施

安全管理の取組



【安全管理部】

- 生活安全
- 災害安全
- 交通安全
- 安全点検

〈生活安全〉

【環境整備】

- ・ 学校生活における安全管理（休み時間、給食時等）
- ・ けがの実態調査→対応検討
- ・ 水泳・プール設備の安全管理

【危機管理体制・訓練】

- ・ 心肺蘇生を含む応急手当等講習会
- ・ 避難行動指導
- ・ 教職員によるプール事故対応訓練
- ・ 教職員による不審者対応訓練
- ・ 不審者対応避難訓練
- ・ Jアラート対応指導
- ・ 教職員による緊急時対応訓練
- ・ 教職員によるR6年度4月事故対応訓練

〈災害安全〉

【危機管理体制・訓練】

- ・ 教職員による火災対応訓練
- ・ 火災避難訓練
- ・ 水害避難指導
- ・ 教職員による地震対応訓練
- ・ 地震避難訓練
- ・ 教職員による緊急時対応訓練

〈交通安全〉

【環境整備】

- ・地区児童名簿作成
- ・通学路の安全点検
- ・校区安全マップ

【危機管理体制・訓練】

- ・引き渡し下校訓練
- ・緊急時一斉下校訓練
- ・地区児童会
- ・交通安全教室
- ・教職員による緊急時対応訓練

〈安全点検〉

【環境整備】

- ・学校安全組織図作成
- ・安全点検（月1回）
- ・個人情報の取り扱い点検（年3回）
- ・防犯設備点検（年1回）
- ・児童ブザーチェック（年3回）
- ・安全防災用品の点検（年3回）



安全管理部 年間計画

月	避難訓練	校内研修
4	避難行動指導	<ul style="list-style-type: none"> ○危機管理マニュアル研修 ○緊急時の校内連絡体制 ○教職員による事故対応訓練 ○教職員による誤食対応訓練 ○応急措置等講習 ○火災避難訓練
5	<ul style="list-style-type: none"> ○地区児童会・緊急時一斉下校訓練 ○Jアラート対応訓練 ○引き渡し訓練 	○事故対応実地訓練（市内公開訓練）
6	<ul style="list-style-type: none"> ○水害避難指導 ○火災避難訓練 ○不審者避難訓練 	○教職員による不審者対応訓練
7		
9	○不審者対応訓練	○教職員による地震避難訓練
11	<ul style="list-style-type: none"> ○緊急地震速報 ○Jアラート対応訓練 	
12		
1	<ul style="list-style-type: none"> ○緊急時一斉下校訓練 ○地震避難訓練 	○教職員による緊急時対応訓練
2	○Jアラート対応訓練	

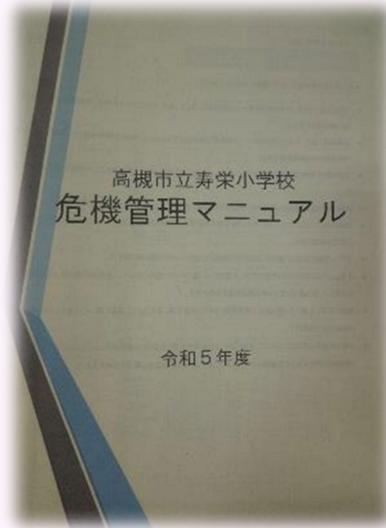
教職員による危機事象発生時対応訓練

- 起こり得る状況を訓練の想定に盛り込む
- 教職員に細かな想定を伏せた訓練を行う
- 事後の振り返りを行う



教職員による危機事象発生時対応訓練

危機管理マニュアル



緊急時対応カード



誰がどの役割になったとしても子どもの安全を守る体制作りをめざしている！

プール事故対応訓練

【目的】

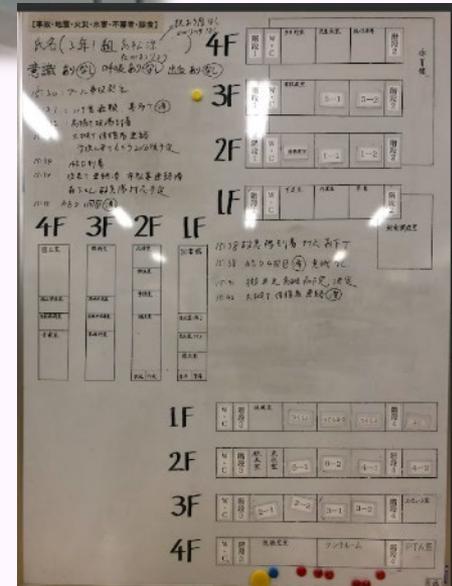
事故発生時（水泳指導中）の教職員の動きをマニュアルに沿って行うことで、緊急時に備える。

【想定】

火曜2限、3年生の水泳指導中に児童1名（女兒）が溺れ、水中に浮かんでいるところを気づいた教員が見つかる。意識がないため、救命救急処置を行う。1年生も小プールで授業を行っている。

【連携】

高槻市内の教職員へ訓練を公開



消防・中学校区の教員との緊急時対応訓練

【目的】

緊急で対応が必要な事案が発生した時の教職員の動きをマニュアルに沿って行うことで、緊急時に備える。

【想定】（想定はすべて伏せて行う）

水曜日の昼休みに運動場でサッカーをしていた6年児童と1年児童が頭と顔が正面衝突

- ・ 1年児童（ぶつかった際に胸を強打
→呼吸・意識なし、心肺停止）
- ・ 6年児童（ぶつかり地面で顔面を強打
→出血・前歯2本折れる意識あり）

【連携】

- ・ 高槻市消防→救急隊役・救急指令室役
- ・ 中学校区の教員→児童役



訓練結果から対応を見直し、危機管理マニュアルを改訂

学校保健安全委員会

メンバー

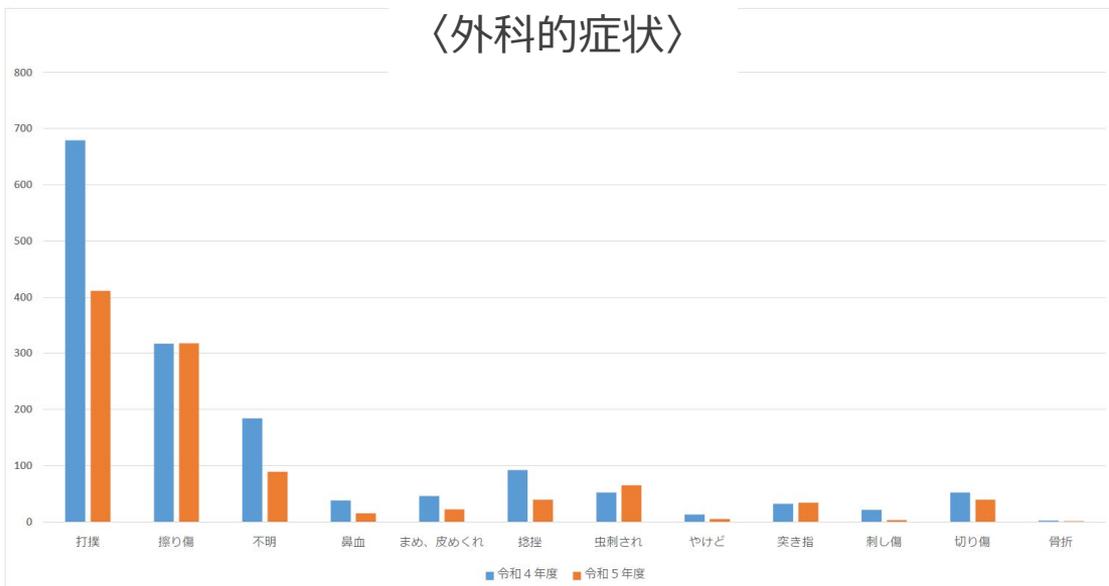
教職員代表・PTA代表・教育委員会・警察関係者・消防関係者
中学校区の校園所長・学校三師・地域代表

年2回開催



取組の成果

〈外科的症狀〉



病院受診件数

(日本スポーツ振興センター保険給付申請数)

• R3 32件



• R4 17件



• R5 13件 (12月末現在)

学校安全アンケートの結果から (数値は、肯定的回答割合の数値)

- 災害や事件・事故が起こったとき、どのように行動すればよいかわかる
R3.10月 93% → R4.12月 97% → R5.10月 98%
- 事故やケガを防ぐためにどうすればよいかわかる
R3.10月 84% → R4.12月 90% → R5.10月 93%
- 生活の中で、自分の状況が安全か危険か判断できる
R3.10月 91% → R4.12月 95% → R5.10月 93%
- 自分も周りの人も安全に過ごせるように気を付けて、学級活動や委員会活動に取り組んでいる
R3.10月 79% → R4.12月 89% → R5.10月 95%

- 子どもたちの安全に関する知識や意識は高水準を保っている。
- 調査では変化はないが、けがの件数が減っていることから、学習が浸透していると考えられる。

学校安全アンケートの結果から (数値は、肯定的回答割合の数値)

- 安全について学んだことや訓練で分かったことをおうちの人と話している

R3は実施なし R4.12月 76% → R5.10月 74%

- 外出中に災害が起こったときに待ち合わせする場所などをおうちの人と決めている

R3.10月 52% → R4.12月 71% → R5・10月 62%

- 家に防災用品を用意している

R3.10月 70% → R4.12月 75% → R5・10月 72%

家庭との連携が必要な項目については、伸び悩みがみられる。

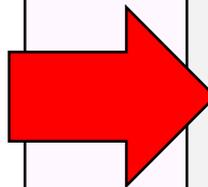
【大阪府学校安全総合支援事業】を活用

先進校視察

(令和5年11月13日)

- 「宮城県石巻市立鮎川小学校」
SPS再々認証校
地域合同避難訓練などの地域連携
持続可能な取組

- 「宮城県東松島市立矢本東小学校」
東小防災の日（毎月11日）
防災学習参観
コミュニティ・スクールの実践



先進校からの学び

- ▶ 事実の継承と取組を継続していくための組織活動とカリキュラムマネジメントの必要性
- ▶ 連携校の地域の特性として、学校と地域のつながりが強固で、協働的な取組が活発に行われていた。連携校の取組を自校においてどのように生かし、取り入れていくか、応用が必要
- ▶ 取組の質の向上
- ▶ 「安全教育」について多面的・多角的な評価方法の検討

今後の展望

- 過去の自然災害を教訓とした学校安全の取組の充実
- 継続的な学校安全の取組と質の向上
- コミュニティ・スクールとして安全を軸とした家庭・地域等と協働した取組の推進
- セーフティプロモーションスクールとしての学校安全に係る取組とその成果普及

